様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 １ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2017
課題番号：２６７７００８４

研究課題名（和文）橋本経亮旧蔵資料の悉皆調査を通じた近世和学研究の基礎構築

研究課題名（英文）The construction of the foundation of Wagaku studies in edo period by thorough investigation of the material possessed by Hashimoto Tsunesuke

研究代表者
一戸　渉（ICHINOHE, Wataru）

慶應義塾大学・斯道文庫（三田）・准教授

研究者番号：２０５９７７３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：橋本経亮（1759～1805）は、非蔵人として朝廷に仕える傍ら京の梅宮社正禰宜を務め、一方で有職故実に秀でた和学者として世に知られた、近世中後期の京都を代表する知識人のひとりである。慶應義塾図書館所蔵『香果遺珍』は彼が書写・蒐集した、約1,200点にも及ぶ旧蔵資料群である。本研究では、これまで未整理であったために研究者の利用が困難であった『香果遺珍』の悉皆調査を行い、それとともに経亮とその周辺による学問・文芸上の活動を総合的に検証することを通じて、近世人が〈和学〉という形で自国の文物へと向けていた関心の多様なありようを、近世という時代に即して実証的に把握することを試みた。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research is to clarify the actual condition of how Tsunesuke Hashimoto who was a priestess and a ministerial official serving the royal palace conducted research on ancient Japan. For that purpose, I conducted an overall survey of Tsunesuke's old collections called Koukaichin in the Keio University Library that has not been studied so far and created a catalog. Subsequently, we gathered all the information on Tsunesuke as much as possible and comprehended. Through these investigations, I was able to make a major contribution to clarifying the academic situation in the late Edo period.

研究分野：日本近世文学

キーワード：和学・国学・古学　日本近世学芸史　好古　有職故実　非蔵人　橋本経亮　藤貞幹　入木道

１．研究開始当初の背景

橋本経亮（1759～1805）は、非蔵人として朝廷に仕えるかたわら京の梅宮社正禰宜を務め、一方で有職故実に秀でた和学者として世に知られた、近世中後期の京都を代表する知識人のひとりである。その交友圏には公家や武家、また同時代の芸文家が数多く含まれ、伝統的な和学と新興の古学の双方に触れ、また好古・考証の学の領域にも先駆的な業績を遺した、近世学芸史上のキーパーソンと言っても過言ではない人物である。にも関わらず、戦前に羽倉敬尚及び木村捨三らによる研究が行われて以来、ほとんど研究上の進展をみておらず、戦後では上田秋成の友人のひとりとして秋成研究において言及される機会があり、拙著『上田秋成の時代―上方和学研究―』（ぺりかん社、2012）第三部第四章及び資料編でもこの経亮を取り上げて論じたことがあるが、資料的な制約もあり充分な検討には及んで居ない。こうした研究上の停滞には様々な要因が考えられるが、最大の理由は、やはり資料的な制約であると考えられる。慶應義塾図書館には、『香果遺珍』と呼ばれる、彼が生涯にわたって書写・蒐集した約 1,200 点にも及ぶ旧蔵資料群が収蔵されている。戦後間もない時期に大島雅太郎より寄贈を受けたものであるが、以来、未整理のままに置かれ、長らく研究者が利用できない状況にあった。

２．研究の目的

本研究の遂行にあたっては、〈①『香果遺珍』を中心とする橋本経亮旧蔵資料の調査・研究〉及び〈②経亮及びその周辺和学者による学問的営為の総合的解明〉という二つの課題を設定している。課題①に関しては、慶應義塾図書館の所蔵する『香果遺珍』約 1,200 点を悉皆調査し、詳細な書誌情報を記載した目録を作製することを通じて研究資源として誰もが利用可能な環境整備を行うことを目的とした。課題②については橋本経亮及びその周辺人物の学問及び伝記に関する資料を可能な限り収集し、総合的な検証を行うことで、橋本経亮による知的営為を近世後期の学問・文化史上に位置付けることを目的とした。

３．研究の方法

本研究の方法論について、２．において先述した研究上の課題①に関しては、個別の資料の書誌調査に基づいた目録化と貴重資料に関する解題的研究を行う点から、広義の書誌学的アプローチを採用して研究を遂行した。課題②に関しては、近世知識人社会の実相を多面的に捉えるべく、文学資料はむろんのこと、歴史史料や書画などの美術資料をも駆使しながら、学芸史・文化史的な研究アプローチに基づく研究方法を採用して研究を遂行した。

４．研究成果

平成 26 年度においては、慶應義塾図書館が所蔵する橋本経亮の旧蔵書群である『香果遺珍』の調査・研究を重点的に行った。慶應義塾図書館が所蔵する『香果遺珍』は現時点では未整理のため非公開であるが、研究代表者は図書館の承諾を得て、すでに平成 25 年度より予備的な調査を進めており、平成 26 年度より本格的に目録刊行のための基礎となる書誌データの採取を開始する形となった。〈書名・巻数／その他の書名／統一書名／著者名／編著者校注者書入／刊写地刊写者／刊写年／刊写注記／冊数／装丁／寸法／『香果遺珍目録』での分類・号数・書名／旧蔵者／奥書・識語・刊記〉などの項目を立ててデータを採取し、総計約 1100 点の第一次調査を完了することができた。またそのうちのいくつかの資料については、諸本及び関連資料の調査研究を行った。加えて、同年 11 月には、研究代表者の所属する慶應義塾大学附属研究所斯道文庫の主催でセンチュリー文化財団寄託品展覧会「書と生きる―江戸人の文雅愛好」を企画立案したが、その際の出品物の中に橋本経亮の関与が認められる入木道書が一定数含まれており、刊行したリーフレットの形でそれらの資料に関する研究成果を公表した。近世期におけるこうした入木道書に関する調査研究は、『香果遺珍』の中に含まれている多数の入木道書の総合的な解明へと繋がるものと考えられるが、その成果の一部を『斯道文庫論集』第 49 輯に掲載した「近世入木道書の生成と伝播――センチュリー文化財団蔵『松平定信旧蔵入木道書一式』『弘法大師書流系図』とその周辺――」において公表した。当該論文ではセンチュリー文化財団（現在は慶應義塾大学附属研究所斯道文庫寄託）の所蔵する松平定信旧蔵の入木道書の解題を出発点に、近世後期の持明院流と大師流というふたつの書の流派の対立と、その対立により惹起された大師流側の対抗措置の結果、様々な入木道書が産み出され、またそれが定信及びその兄弟である伊予松山藩主松平定国らの間で収集されていった事実について跡付けた。

平成 27 年度においては、前年度に引き続き慶應義塾図書館が所蔵する『香果遺珍』の調査・研究を重点的に行った。前年度に実施した第一次調査を踏まえて、目録データの精度を向上させるため第二次調査を実施した。ただし、その作業には当初の計画より若干の遅れが生じ、平成 27 年度末の時点における進捗状況は当初の計画の 8 割程度となった。作業に遅れが生じた理由は、絵画や器物、古文書などの摸写資料が多数あり、それらの多くが内容面の調査に時間を要するものであったことによる。とはいえ、作業の遅れは軽微なものであるため、平成 28 年度前半には作業を完了できる見込みであると判断した。平成 27 年度中に発表した本研究に関連する主な研究成果としては、「和歌の万葉書」（『斯

道文庫論集』第 50 輯・平成 28 年 2 月）が挙げられる。当該論文は、和歌を真字（漢字）のみで表記するというやや特殊な表記法を通時的に検討したものであるが、その考証の過程において、経亮の著作である『橘窓自語』に記されている妙法院宮真仁法親王の真名書和歌懐紙をめぐるエピソードについて再検証し、それを和歌表記の歴史上に位置付けることを試みている。また口頭発表「賀茂社家岡本家文書における入木道関係資料」（科研研究会 近世における天皇歌壇とその周辺Ⅱ・於大手前大学・平成 28 年 2 月 28 日）では、橋本経亮と親交のある書博士岡本保考に関する近世期の書道関係の新出資料（金沢市立玉川図書館近世史料館蔵賀茂社岡本家文書）を紹介し、和学史上における復古的潮流が、同時代の書道史と連動している事実について指摘を行った。

平成 28 年度には『香果遺珍』に含まれる約一千二百点の橋本経亮旧蔵資料の目録化作業をおおむね完了した。これにより次年度以降、図書館側と相談しつつ、資料の公開と目録の刊行に向けた作業を進めてゆく目途をつけることができた。また当該研究課題と関連して、近世期の好古文化を主題とした展覧会（平成 28 年度センチュリー文化財団寄託品展覧会「描かれた古―近世日本の好古と書物出版―」）を企画し、学内外へのアウトリーチ活動に努めた。当該展示企画に関わる研究成果の一端は、当該展覧会に際して作成したリーフレットでの解説という形で公表した。さらに、『斯道文庫論集』第五十一輯に掲載した論文「藤貞幹『寛政元年東遊日録』について―附・慶應義塾図書館蔵本翻印―」では、橋本経亮の和学上の先導者にあたる藤貞幹が寛政元年に江戸に下った折に出会った人物や、見聞した典籍や古筆などについて『寛政元年東遊日録』という資料に即して考証し、貞幹自筆本の謄写本である慶應義塾図書館蔵本に基づく翻印を付した。この『寛政元年東遊日録』には杉田玄白や柴野栗山、立原翠軒などの人物、安倍小水麿願経や伝公任筆太田切本和漢朗詠集、南宋版『春秋穀梁伝』、下総本『和名類聚抄』等の典籍・古筆が登場し、もってこの時期の貞幹による資料調査活動の質の高さと、人脈の幅広さが明らかとなった。

最終年度である平成 29 年度には、昨年度に製作した目録の精度向上をはかるべく、一部の資料について再度の確認作業を行うと共に、関連資料の収集・精読を行った。以上の作業を通じて目録の最終データを確定させ、慶應義塾図書館へと目録データの提供を行った。なお図書館側のスケジュールの関係で、目録の刊行及び閲覧公開は、次年度以降となる予定である。本年度中に発表した主な業績としては以下のものがある。平成 29 年 7 月 23 日に国立歴史民俗博物館で開催された共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」第 1 回研究会での口頭発表「近世好古図譜研究の諸前提」では、経亮およびその周辺において製作された近世期の好古図譜類に焦点を当て、その製作過程や、相互の関連性について論じ、従来信憑性に疑問が呈されてきたこれらの好古図譜類の再評価への道筋を論じた。河野貴美子他編『日本「文」学史　第二冊　A New History of Japanese “Letterature” Vol.2　「文」と人びと―継承と断絶』（勉誠出版・平成 29 年 6 月）に分担執筆した「和学」項では、経亮をも含む近世期の和学の歴史的展開について俯瞰的に論じたものである。『斯道文庫論集』第 52 輯（平成 30 年 2 月）に掲載した単著論文「大師流と入木道書―架蔵岡本保考宛妙法院宮真仁法親王書状小考」では、経亮と接点を持つ大師流の能書岡本保考に関する新出資料を紹介した。当該論文で論じた岡本保考宛妙法院宮真仁法親王書状は、学界未紹介のものであり、近世後期における朝廷の書をめぐる諸動向に関し、太政官印の再興や入木道書の天覧・官庫への納入などについて、新たな知見を加えた。

本研究において、採択期間中に現地に赴いて関連資料の調査を実施した主な機関は、以下の通りである。国立国会図書館・国立公文書館内閣文庫・東京大学史料編纂所・東京大学総合図書館・東京都立中央図書館・静嘉堂文庫・国文学研究資料館（以上、東京都）・国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）・筑波大学附属図書館（茨木県つくば市）・西尾市立岩瀬文庫（愛知県西尾市）・東丸神社（京都府京都市）・京都府立総合資料館（京都府京都市）・富山市立図書館本館（富山県富山市）・金沢市立玉川図書館近世史料館（石川県金沢市）・福井市立郷土歴史博物館（福井県福井市）・神宮文庫（三重県伊勢市）・天理大学附属天理図書館（奈良県天理市）・四天王寺国際仏教大学（大阪府羽曳野市）・雲谷山常楽寺（兵庫県赤穂市坂越）。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 一戸 渉、大師流と入木道書――架蔵岡本保考宛妙法院宮真仁法親王書状小考、斯道文庫論集、査読無、第 52 輯、2018、35-64、http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20170000-0035

② 一戸 渉、藤貞幹『寛政元年東遊日録』について―附・慶應義塾図書館蔵本翻印―、斯道文庫論集、査読無、第 51 輯、2017、239-278、http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20160000-0143

③ 一戸 渉、和歌の万葉書、斯道文庫論集、査読無、第 50 輯、2016、181-242、

http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20150000-0181

④ 一戸 渉、歌僧吾有玄道松本柳斎瑣話、渋谷近世、査読無、第 22 号、2016、40-46

⑤ 一戸 渉、近世入木道書の生成と伝播――センチュリー文化財団蔵『松平定信旧蔵入木道書一式』『弘法大師書流系図』とその周辺――、斯道文庫論集、査読無、第 49 輯、2015、239-278、http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20140000-0239

〔学会発表〕（計５件）

① 一戸 渉、近世好古図譜研究の諸前提、共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」第１回研究会、2017

② 一戸 渉、松平定信の伊勢物語筆写活動とその周辺、基幹研究「鉄心斎文庫伊勢物語資料の基礎的研究」第三回研究会、2016

③ 一戸 渉、賀茂社家岡本家文書における入木道関係資料、科研研究会　近世における天皇歌壇とその周辺Ⅱ、2016

④ 一戸 渉、万葉書和歌をめぐる覚書、北陸古典研究会機関誌「北陸古典研究」30 号記念大会、2015

⑤ 一戸 渉、和歌の真名書―大嘗会和歌からアララギ派まで―、表記の文化学第３回（平成２７年度第２回）研究会、2015

〔図書〕（計４件）

① 河野貴美子他編、勉誠出版、日本「文」学史　第二冊　A New History of Japanese “Letterature” Vol.2 「文」と人びと―継承と断絶、2017、総ページ数 560 頁（一戸 渉が第二部第五章「和学」272-283 頁を分担執筆）

② 一戸 渉・佐々木孝浩・高橋悠介、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・慶應義塾大学アート・センター、平成 28 年度センチュリー文化財団寄託品展覧会 描かれた古―近世日本の好古と書物出版―、2016、総ページ数 23 頁

③ 井上泰至・田中康二編、笠間書院、江戸文学を選び直す、2014、総ページ数 201 頁(一戸 渉「和漢という対―近世国学史の隘路（アポリア）―荷田春満『創学校啓』46-61 頁を分担執筆）

④ 一戸 渉・佐々木孝浩・堀川貴司・川上新一郎、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・慶應義塾大学アート・センター、書と生きる―江戸人の文雅愛好 ： センチュリー文化財団寄託品展覧会、2014、総ページ数 21 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者　一戸 渉（ICHINOHE,Wataru）
慶應義塾大学・斯道文庫・准教授
研究者番号：　20597736

(2)研究分担者
（　　）
なし

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
なし

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）
なし